

第四章 準動詞(1)

《 準動詞とは何か？ 》

準動詞とは、具体的には「不定詞」「動名詞」「分詞」の3つの品詞のこと。この3つを総称して準動詞と言うのです。

準動詞は、形的には、動詞に-ing, -ed, to をつけたものになりますが、これらがつくことにより、以下のような機能[働き]、特徴[性質]を持ちます。

①元々動詞だったものが「名詞」「形容詞」「副詞」の働きをする。

彙文の骨組みとなる(述語)動詞にはなれない。

(ex) Learning a language is difficult. ☞ learn という動詞に-ing をつけることによって、主語つまり言語を学ぶことは難しい 「名詞」の働きをさせている。この learning は動名詞。

I read an interesting story. ☞ interest という動詞に ing をつけることによって、名詞(story)を修飾、つまり「形容詞」の働きをさせている。この interesting は現在分詞。

I went to the U.S. to study it. ☞ study という動詞にtoをつけることによって、動詞(went)それを学ぶためにアメリカに行った を修飾、つまり「副詞」の働きをさせている。to study は不定詞。

②数(単数・複数)・時制(現在・過去・未来)・人称(1～3人称)・法(直説法・仮定法)といったものに制約されない。つまり、時制や主語の数がどうであっても、形が変わらない。

(ex) I want to go there. ☞ 左の2つの英文のto go(不定詞)は、主節の動詞の時制が変わっても to go のまま。主節の動詞(want, wanted)の時制と同じ「時(制)」を表している。

I wanted to go there.

③準動詞は文中で(上例のように)名詞・形容詞・副詞の働きをしながら、元々の動詞の性質も(引きずって)持っている。
つまり、(純粋な「名詞」「形容詞」「副詞」にはありえない)以下のような動詞的な性格を持っている。

1.自身の「目的語」や「補語」をもつ。

(ex) I want to visit Japan. ☞ to visit(不定詞)は、want の目的語として機能しながら、
いつか日本に行きたい かつ Japan という自身の目的語を持っている。

I want to be a teacher. ☞ to be(不定詞)は、want の目的語として機能しながら、かつ
教師になりたい a teacher という自身の補語を持っている。

2. 自らの動作の主体(意味上の主語)をもつ。

(ex) I insisted on Kim going there. ☞ going(動名詞)は、Kim という自身の意味上の主語を
キムがそこに行くよう主張した 持っている。

3. 副詞によって修飾される。

(ex) Talking loudly is not polite. ☞ talking(動名詞)は、主語としての働きをしながら、
大声で話すのは礼儀正しくない loudly(副詞)によって修飾されている。

4. 完了形や受身がある。

(ex) Being scolded is shameful. ☞ being scolded は、scolding(動名詞)の受身形。
叱られるのは恥ずかしい

He seems to have been ill. ☞ to have been ill は、to be ill の完了形(完了
彼は病気だったみたいだ 不定詞)。

動名詞

レクチャー 1

動名詞とは。

動名詞とは、動詞に「～ing」がついて、動詞の意味を残しながらも名詞的な働きをするもののことを言います。

ですから、動名詞の文中での働き[機能]は名詞と同じです。つまり

① 「主語(S)」「目的語(O)」「補語(C)」

② 前置詞の目的語

☞「前置詞の目的語」とは、前置詞の後ろに置かれる名詞(の仲間)のことを指して言う。つまり動名詞は前置詞の後ろに置かれるということ。当たり前だが、前置詞の後ろには「名詞の仲間」しか来れない。不定詞にも「名詞用法」がある(つまり「名詞の仲間」として用いられることがある)が、不定詞の場合、前置詞の目的語にはなることができない。つまり「前置詞+to do[原形]～」という言い方はできない。

のいずれかになります。

そして動名詞は「～すること」と訳します。

(ex) Collecting stamps is my hobby.

S

切手を集めることは僕の趣味だ

I remember seeing him when I was a boy.

O

子供の頃彼に会ったことを覚えている

My job is cleaning the office.

C

私の仕事は事務所の掃除をすることです

He blamed me for being late for the meeting.

(前)

前置詞の目的語

☞・(前)は「前置詞」のこと。

彼は会議に遅れたことで私を責めた

・blame A for B「Bの理由でAを責める」

また、動名詞を否定する場合、その直前に否定語(never,not等)を付けます。これは準動詞(不定詞・分詞・動名詞)全てに共通するルールです。

(ex) He suggested not going there. [動名詞]

彼はそこに行かないことを提案した

He pretended not to be listening. [不定詞]

彼は聞いていないふりをした

Not knowing what to say, he kept silent. [分詞]

何を言っていないかわからなかったので、彼は黙っていた

《 a sleeping bag と a sleeping baby 》

「名詞＋名詞」で、前の名詞が形容詞的に働くことがある。たとえば、health center。health は「健康のための」という形容詞的な働きをして (center という後ろの名詞を修飾)している。

これと同じように、「動名詞＋名詞」で、前の動名詞が形容詞的に働く(つまり後ろの名詞を修飾する)ことがある。たとえば、a sleeping bag。これは「寝袋」という意味。ちなみに a sleeping baby という場合の sleeping は現在分詞で、「寝ている赤ちゃん」。

「-ing＋名詞」となる場合の -ing が、動名詞なのか現在分詞なのかの見極め方は、-ing を「～のための」と訳せるなら動名詞、「～している」と訳せるなら現在分詞である。確かに a sleeping bag は「寝るための袋」であり、sleeping 文字通り「寝ている赤ちゃん」だ。

た「未来志向」「積極性」が感じられる動詞が多いのです(「類は共を呼ぶ」。同じ性格だから結びつく)。

その(つまり「未来志向」「積極性」型の動詞の)3大代表選手が、

「希望(～したい)」「意図(～するつもり)」「決心(～することに決める)」

を表す動詞です。確かに、たとえば「大学に行きたい」「大学に行くつもりだ」「大学に行くことに決めた」といった場合、どれもまだ大学には実際には「行っていない」わけで、「行く」のはこれから先、つまり「未来」の話[こと]ですよ。そしてこれらの動詞には「積極的意志・願望」が感じられます。

このような簡単な例からも、これらが「未来志向」「積極性」型の動詞であることがわかります。

では具体的に(不定詞を目的語に取る)「希望」「意図」「決心」を表す他動詞の例をあげてみましょう。

①希望

hope「望む」 desire「したい」 wish「したい」 long「したい」 want「したい」 beg「懇願する」
care「否定文・疑問文でしたい」 ask「頼む」 claim「主張する」 demand「要求する」

②意図

plan「計画する」 expect「つもりだ」 fail「しない・できない」 vote「(投票で)支持する」 aim「つもりだ」
offer「申し出る」 pretend「ふりをする」 attempt「しようとする」 venture「あえて～する」 vow「誓う」
agree「同意する」 consent「同意する」 refuse「拒絶する」 undertake「ひき受ける」
swear「誓う」 guarantee「保証する」 seek「しようと努める」 promise「約束する」

③決心

decide「決心する」 determine「決心する」 resolve「決心する」 hesitate「ためらう」 choose「決める」

④イディオム・その他

◎can afford to do[原形]～ 「～する余裕がある」 ☞◎をつけたものは類出。

◎manage to do[原形]～ 「どうにか～する」

tend to do[原形]～ 「～しがちだ」「～する傾向にある」

learn to do[原形]～ 「～する[できる]ようになる」

(3)動名詞だけを目的語に取る他動詞。

動名詞を目的語に取る動詞の一般的な特徴は以下になります。

1. 既に起こったこと[したことがあること]について言及する動詞

2. これまでもしたことがあるし、これからも繰り返す可能性がある事柄について言及する動詞
3. 「やめる」「避ける」「嫌だ」といった消極的な動詞

ただ、それだけではなかなか容易に覚えきれないので、よく大学入試などで出題されるものの頭文字をとって「リックダメガフェプス(RICKDAMEGAFEPS)」と覚えるのも1つの方法です。

① 「リックダメガフェプス(RICKDAMEGAFEPS)」 愈下線語は頻出。

Risk「危険を冒して～する」 Resist「抵抗する」 Recommend「～するよう勧める」 Report「報告する」
Imagine「想像する」 Involve「～を必要とする」 Recollect「思い出す」 Recall「思い出す」
Consider「～についてよく考える、熟考する」 Can't help「～せざるはられない」 Complete「終える」
Keep「～し続ける」 Contemplate「～しようと計画する、もくろむ」
Deny「否定する」 Delay「遅らせる」 Detest「嫌う」 Defer「延期する」
Admit「認める」 Adore「大好きだ」 Appreciate「感謝する」
Mind「気にする、いやだ」 Miss「～し損なう」 Mention「述べる」
Enjoy「楽しむ」
Give up「あきらめる」
Avoid「避ける」 Advise「忠告する」 Acknowledge「認める」
Finish「終える」 Fancy「想像する」
Escape「逃れる」 Evade「避ける」 Excuse「許す」
Put off [Postpone]「延期する」 Practice「実行する」
Stop「やめる」 Suggest「提案する」

②その他

quit「～するのをやめる」

《 stop doing～ と stop to do[原形]～ 》

stop は動名詞を目的語に取ると言いましたが、stop to do[原形]～(～するために立ち止まる)という表現もあります。

しかしこれは、自動詞の stop(立ち止まる)に、「～するために」という副詞用法の不定詞が付いたもので、to do[原形]～ は(stop の)目的語ではありません。

(ex) She stopped to talk. 彼女は話をするために立ち止まった (彼女は立ち止まって話をした)	☞自動詞の stop。 to talk は副詞用法の不定 詞。
She stopped talking. 彼女は話をやめた	☞他動詞の stop。 talking は stop の目的語。

(4)目的語に不定詞を取った場合と動名詞を取った場合で意味が異なる他動詞。

①不定詞が未来を表わし、動名詞が過去を表わすもの

以下にあげた動詞は、不定詞を目的語に取った場合、「未来」の内容を表し、動名詞を目的語に取った場合、「過去」の内容を表します。◎の動詞は頻出です。

◎1.remember { to do~ 「~するのを覚えておく、忘れずに~する (未来)」
doing~ 「~したことを覚えている (過去)」

(ex) Remember to write to me when you get there.
そこに着いたら忘れずにお便りを下さいね
I remember seeing the picture somewhere before.
その絵を以前どこかで見たことがある

◎2.forget { to do~ 「~することを忘れる (未来)」
doing~ 「~したことを忘れる (過去)」

(ex) You have forgotten to pay back the money.
君は金を返すのを忘れてるよ
I'll never forget listening to his lecture.
彼の講義を聞いたことは決して忘れません

3.regret { to do~ 「~することを後悔する、残念ながら~する (未来)」
doing~ 「~したことを後悔する (過去)」 ☞ having+p.p.となることもある。

(ex) I regret to say that I cannot accept your offer.
残念ながらあなたの申し出をお受けできません

I regret telling a lie to you.

あなたに嘘をついたことを後悔しています

4.try {
to do~ 「~しようと(努力)する」 = seek to do~
doing~ 「試しに~してみる」

(ex) I always try to speak in English to improve my speaking ability.

私は英会話の力を伸ばすために常に英語で話すように努力しています

I tried climbing the hill.

私は試しにその丘に登ってみた

㉹ try は「to do~ = 未来」「doing~ = 過去」の行為になることが大半なので、例えば以下の問題でもそれがヒントになる。

I (), but she pretended not to hear me.

① tried to talk to her

② tried talking to her

①の場合、(過去のその時点で)「彼女に話しかけようとした」ということは、その時点ではまだ彼女には、実際には話しかけていないことになる。

②では、過去のその時点で(実際に)「彼女に話しかけてみた」ということ。空欄の後ろで「しかし彼女は聞こえないふりをした」という記述がある。実際に話しかけていなければ、「聞こえないふり」をするはずはない。したがって正解は②となるのである。

②不定詞が**能動(～する)**を表わし、動名詞が**受身(～される)**を表わすもの

以下にあげた動詞は、不定詞を目的語に取った場合、「**能動(～する)**」の内容を表し、動名詞を目的語に取った場合、「**受身(～される)**」の内容を表します。

◎の動詞は頻出です。

◎1.need {
to do~ 「~する必要がある (**能動**)」
doing~ 「~される必要がある (**受身**)」 = need[require] to be+p.p.~
= require doing~

(ex) You need to get up early tomorrow, don't you?

明日は早く起きなきゃいけないでしょう
This machine needs[requires] repairing.
=This machine needs[requires] to be repaired.
この機械は修理される[を受ける]必要がある

2.want {
to do~ 「～したい (能動)」
doing~ 「～される必要がある (受身)」 = need[require] doing~
= need[require] to be+p.p.

(ex) He wants to go abroad to study English.
彼は英語を学ぶために海外に行きたいと思っている
This flower wants watering.
この花は水をまかれる必要がある

3.deserve {
to do~ 「～する価値がある (能動)」
doing~ 「～される価値がある (受身)」 = deserve to be+p.p.~

(ex) She deserves to succeed.
彼女なら成功してもおかしくない
A person who steals deserves punishing.
盗みを働くものは罰せられて当然だ

④ need doing~, require doing~, want doing~, deserve doing~ となる場合の doing、つまり動名詞は、すべて「受け身(～される)」の意味を表す。これら以外に動名詞が受け身の意味を表す構文として「S is worth doing~: S は～する価値がある」がある。これも大学入試などでは頻出だ。

(ex) This book is well worth reading.
この本は読む[読まれる]価値が十分ある

上の英文でも「本は読まれるものだから ~ worth being read だろう」などと考えるはいけない。worth の後ろの動名詞は受け身を表すので reading で「読まれる」という意味を表せるのだ(逆に being read は間違い)。もう1つ例をあげておこう。

(ex) Paris is a city worth visiting.
パリは訪れる[訪れられる]価値のある都市である

③その他

mean {
to do~ 「~するつもりだ」
doing~ 「~することを意味する、~ということになる」

(ex) I mean to call on you tomorrow.

明日あなたを訪ねるつもりです

That means running a risk.

それは危険を冒すことを意味する

(5)目的語に不定詞、動名詞どちらを取ってもあまり意味が変わらないもの。

これらは、文法問題に出題されることはあまりありません。

①「好き」「嫌い」…like, love, prefer, hate

⚠ただし dislike は動名詞のみを目的語に取る。

②「始める」「続ける」…begin, start, continue

③「しなくなる」…cease

レクチャー3

動名詞の意味上の主語。

英文中で、動名詞の前に「名詞」「目的格」「所有格」が付いていることがあります。この動名詞の前に付いた「名詞」「目的格」「所有格」と、直後の動名詞の間には「主語と述語(主が述する[される・になる・である])」の意味関係が成立しています。

「所有格」

「目的格」 + doing[動名詞]

「名詞」

(主)

(述)

(ex) his[him] coming 彼が 来ること

(主) (述)

Nancy buying the bag ナンシーがその鞆を買うこと
(主) (述)

この動名詞の前に付いた「名詞」「目的格」「所有格」のことを、(動名詞の)意味上の主語と呼びます。

會ただし動名詞が文の主語になる場合、その意味上の主語は所有格[又は名詞]が普通。

(ex) Their doing it is sure to be successful.

S

彼らがやるなら成功するはずだ

この意味上の主語というのは、どんな場合にも付くというわけではありません。つまり付く場合と付かない場合があります。

(1)意味上の主語を明示する必要がない場合。

①文の主語と(動名詞の)意味上の主語が同じである場合

(ex) I insisted on going there.

私は(自分が)そこに行くことを主張した

上の英文の動名詞(going)は、(「私」が「行く」わけで)意味上の主語は「私」で、文の主語もIつまり「私」です。このように、「文の主語＝動名詞の意味上の主語」の場合は、動名詞の意味上の主語を英文中に明示する[付ける]必要はありません。

②「一般の人」が(動名詞の)意味上の主語である場合や、意味上の主語が文脈から明らかな場合

(ex) Seeing is believing.

見ることは信じること → 百聞は一見にしかず

上の英文の動名詞(seeing, believing)の意味上の主語は「一般の人(我々)」ですが、このような意味上の主語も、英文中に明示する[付ける]必要はありません。以下は、意味上の主語が文脈から明白であるために明示されていない例です。

(ex) My hobby is collecting postage stamps.

私の趣味は切手を集めることです

上の英文の動名詞、collecting には意味上の主語がついていませんが、かといって文の主語(My hobby)が(隠れた)意味上の主語でもありません。意味上の主語は、もちろん「私」です。

(2)意味上の主語を明示する必要がある場合。

それは文の主語と(動名詞の)意味上の主語が異なる場合です。

(ex) I insisted on his[him] going there.

私は、彼がそこに行くことを主張した

上の英文の動名詞、going には、今度は his[him] という意味上の主語が明示されて[付いて]います。「行く」のは「私(I)」ではなく「彼(his[him])」だからです。

このような場合は、「彼が行くこと」と、しっかりその意味上の主語を和訳でも明示して訳さなければいけません。

(ex) I insisted on Jack paying for it.

私はジャックがその支払いをするよう主張した ④pay for A「Aの代金を支払う」

上の英文の動名詞、paying も、Jack という意味上の主語がついている(「支払う」のは「私(I)」ではなく、「ジャック(Jack)」だから。)ので、和訳の際には「ジャックが支払うこと」と、しっかりその意味上の主語を明示しなければなりません。

レクチャー4

完了動名詞(having+p.p. ~)の用法。

一般的に私達は、doing~ を動名詞と呼んでいます。文法用語では doing~ のことは「単純動名詞」と言い、having+p.p.~ のことを「完了動名詞」と言います。「単純動名詞(doing~)」は、主節の動詞の時制と同じかそれより未来の内容を表します。

④「主節」とは(従位)接続詞・関係詞・疑問詞等が付いていない(裸の)S+Vのこと。

(ex) I am interested in writing music.

私は作曲することに興味がある

上の英文の writing は、主節の動詞(am[現在時制])と同じ時制、つまり現在の内容を表

しています。

(ex) I am looking forward to seeing you again.

また会えることを楽しみにしています

上の英文の seeing you again は、主節の動詞(am[現在時制])よりも後、つまりこれから先の未来の内容を表しています。

このような「単純動名詞」に対して「完了動名詞(having+p.p.～)」は、主節の動詞より時制が1つ昔であることを表します。

(ex) She is proud of having been a famous actress when she was young.

彼女は若いころ、有名な女優だったことを自慢に思っている

上の英文の having been は、主節の動詞(is[現在時制])よりも1つ前の時制、つまり過去の内容を表しています。したがって節で書き直した場合、以下のように過去時制で表されます。

④「節」とは、2語以上からなり、内部にS+Vがあるもの。ちなみに「句」とは、2語以上からなり、内部にS+Vがないもの。

→ She is proud that she was a famous actress when she was young.

もちろん主節の動詞が過去時制の場合、その後ろの完了動名詞(having+p.p.～)は、それより1つ昔、つまり大過去の内容を表すことになります。

ただし、remember, forget のような、ある特定の動詞の後ろでは、単純動名詞(doing～)が主節の動詞よりも1つ前の時制を表すことがあります。

(ex) I remember visiting the temple before.

以前その寺を訪れたことを覚えている

上の英文の visiting は、主節の動詞(remember[現在時制])よりも1つ前の時制、つまり過去の内容を表しています。

レクチャー5

「to+doing～」の慣用表現。

toには「不定詞」のtoと「前置詞」のtoがありますね。そのtoが不定詞なら、直後は当然「動詞の原形」が来なくてはなりません、そのtoが前置詞なら「動名詞(名詞・代名詞等)」が来なくてはなりません。

④前置詞の後ろに来るのは「名詞の仲間」だけだから。

① to[不定詞] + 動詞の原形

② to[前置詞] + 名詞の仲間(名詞・代名詞・動名詞等)

このうち、「(前置詞の)to+doing～」で慣用的に使われる表現は、大学入試などでは超頻出です。

① be[get] used to doing～ 「～することに慣れている[慣れる]」
=be[get] accustomed to doing～

(ex) I'm used to getting up early.
僕は早起きすることに慣れている

《間違えやすい used to 関連表現》

① be used to A(名)/doing～ 「A/～することに慣れている」 ☞この構文のtoは「前置詞」。
=be accustomed to doing～

(ex) I'm used to getting up early.
僕は早起きすることに慣れている

be動詞の代わりに get, become, grow 等が使われると「～することに慣れる」という(変化を表す)意味になる。

(ex) Bob got[became/ grew] used to hard work.
ボブはつらい仕事[一生懸命働くこと]に慣れた

② used to do[原形]～ ☞この構文のtoは「不定詞」。

1.[do=動作動詞] 「(昔)よく～したものだ」[過去の習慣]

(ex) I used to get up early when young.
若い頃は早起きをしたものだった

2.[do=状態動詞] 「(昔)～だった」[過去の事実・状態]

(ex) He used to be an actor when young. ☞used to be は「was[were]」と同じと考え
若いころは彼は役者だった ていい。

③ be used to do[原形]～ 「～するために使われる」

① use O to do[願]～(Oを～するために使う)の受け身。

これは「～を使う」というuseの受動態に、「目的」を表すto不定詞がついたものにすぎない。よく引っかけ問題にこの use が使われたりするるので注意。

(ex) This machine is used to clean the car.

この機械はその車を掃除するために使われる

① We use this machine to clean the car. の受け身。

② look forward to doing～ 「～することを楽しみにする[待つ]」

(ex) I'm looking forward to going abroad for study next year.

私は来年留学することを楽しみにしています

③ what do you say to doing～? 「～したらいかがですか」 [勧誘・提案]

(ex) What do you say to taking a bath before you take supper ?

夕飯前にお風呂に入ったらいかがですか

④ devote[dedicate] oneself to doing～ 「～することに専念[専心]する」

(ex) He devoted[dedicated] himself to introducing Western ideas into Japan.

彼は西洋思想を日本に伝えることに専心した

⑤ with a view to doing～ 「～するために」 [目的]

=with the view of doing～

(ex) She works hard with a view to gaining a scholarship[奨学金].

彼女は奨学金を得るために、一生懸命勉強している

① 同じ「～するために」でも、in order to の to は不定詞。直後には動詞の原形が来る。

(ex) I went there in order to meet him.

彼に会うために私はそこに行った

⑥ object to doing～ 「～することに反対する」

=oppose doing～

=be opposed to doing～

=oppose oneself to doing～

(ex) I object to carrying out the plan.

私はその計画を実行することに反対だ

My mother is opposed to my riding a motorcycle.

母は私がオートバイに乗ることに反対している

⑦ when it comes to doing～ 「～することとなると、～に関しては」

(ex) When it comes to eating, my sister is a very different person.

食べることとなると、姉は別人のようになる

⑧ come near (to) doing～ 「もう少しで～しそうになる」

☞ nearがcloseになることもある。

(ex) He came near to falling from the tree.

彼はもう少しで木から落ちるところだった

レクチャー6

動名詞を用いた慣用表現。

(1) There is no doing～

「～できない」

=It is impossible to do[原形]～

(ex) There is no denying the fact that you told a lie to me.

君が私に嘘をついたという事実は否定できない

(2) It is no use[good] doing～

「～しても無駄だ」

=There is no point[sense] (in) doing～

=No point[sense] (in) doing

=What is the use of doing～?

(ex) It is no use crying over spilt milk. ☞ 「覆水盆に返らず」の意の諺。

こぼれたミルクを嘆いても仕方がない

(3) never[cannot]~ without doing... 「~すれば必ず…する」

(ex) My husband never goes out without leaving his umbrella in the train.
夫は外出すれば、必ず列車に傘を忘れてくる

(4) of one's own doing 「自分自身で~した」

(ex) The cake is delicious and it is of her own making.
そのケーキは美味しいんですが、それは彼女が自分で作ったものです

(5) A is worth doing~ 「Aは~する価値がある」

=It is worth (while) doing[to do] A

(ex) The city is worth visiting many times.
その街は何度も訪れてみる価値がある
=It is worth (while) visiting the city many times.
=It is worth (while) to visit the city many times.

(6) spend A(時間・金) (in/on) doing~ 「~することにAを費やす」

(ex) She spent the whole evening writing the letter.
彼女はその手紙を書くのに丸々1晩かけた
④ 「spend A(時間・金・労力など) on B(物事) :BにAを費やす」と、onの後には
名詞も来る。

(ex) He spends a lot of money on books.
彼は本にたくさんの金を使う

(7) feel like doing~ 「~したい気がする」

(ex) I was so tired that I felt like going to bed soon.
私はとても疲れていたのですぐに寝たい気がした

(8) in doing~ 「~する場合には」

(ex) In crossing the street, be careful.
通りを渡る際には気をつけなさい

(9) on doing～ 1. 「～するや否や」
=as soon as S+V～ 2. 「～する時」

(ex) On seeing me, he ran away.
私を見るとすぐ、彼は逃げた

(10) be busy (in) doing～ 「～するのに忙しい」

(ex) He is busy preparing for the next examination.
彼は今度の試験の準備に忙しい

(11) go doing～ 「～しに行く」

罇 「doing」の部分には「スポーツ・気晴らし」に関する(移動を表す)動詞が入る。

(ex) go fishing/ boating/ camping/ shightseeing/ dancing/ walking/ riding
shooting/ hunting等
「釣りに行く」「ボートに乗る」「キャンプに行く」「見物をする」「ダンスに行く」「散歩に行く」「乗馬に出かける」「狩猟に行く」「狩りに行く」

(12) can not help doing～ 「～せずにはいられない」

=can not (help) but do[原形]～

(ex) I cannot help watching the TV program every Sunday evening.
毎週日曜の夜はそのテレビ番組を見ずにはいられない

(13) be on the point of doing～ 「まさに～しようとしている」

=be about to do[原形]～

(ex) The man was on the point of carrying out his plan at the time.
その男はその時(まさに)自らの計画を実行しようとしていた

(14) prevent A from doing～ 「Aが～するのを妨げる」

[keep]

[stop]

[hinder]

(ex) A sudden snowstorm prevented them from coming on time.

突然の吹雪が彼らが時間どおりに来ることを妨げた
→ 突然の吹雪のために彼らは時間どおり来れなかった

- (15) How about doing~? 「~してはいかがですか」
=What about doing~? 「~しませんか」
=What do you say to doing~?

(ex) How about going out for walk?
散歩に出かけませんか

- (16) It goes without saying that S+V~ 「~は言うまでもない」
=Needless to say, S+V~

(ex) It goes without saying that he is used to speaking Japanese.
彼が日本語を話すことに慣れていることは言うまでもない

- (17) be in the habit of doing~ 「~する癖がある」
=have a[the] habit of doing~

(ex) She is in the habit of speaking ill of others.
彼女は他人の悪口を言う癖がある

- (18) make a habit[rule/ point/ practice] of doing~ 「~することになっている」
=make it a habit[rule/ point/ practice] to do[原形]~

(ex) My father makes a habit of reading a paper when having breakfast.
=My father makes it a rule to read a paper when having breakfast.
父は朝食を食べるときに新聞を読むことにしている

- (19) have trouble[difficulty] (in) doing~ 「~するのに苦労する」

(ex) I had a lot of trouble[difficulty] reading the book.
私はその本を読むのに大変苦労した